

なし管理情報 No.2

令和4年3月25日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター

1 開花予測

- ・「豊水」、「幸水」の開花始めは、平年より1～2日早くなると予測されている。
- ・新潟气象台3/17発表の1ヶ月予報では、4月18日までの平均気温は、平年並み～高いと予報されており、開花時期が早まる可能性がある。
- ・今後の気温や生育状況に注意し、計画的な作業に努める。

※開花予想は、富山県園芸研究所ホームページで公開しています。参考にしてください。

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/>

【果樹研究センター開花予測】

(R4.3.22 現在)

年次	豊水	幸水
	開花始	開花始
R4 (予測)	4/13～14	4/17
R3	4/3	4/7
平年	4/15	4/18

※ R3年、平年は果樹研究センター実測値

2 病害虫防除

(1) 今後の防除

開花前後が黒星病の重要防除時期である。下記の時期を目安に、開花状況に合わせて、遅れないように防除を実施する。

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	対象病害虫	10aあたり散布量	実施日(自己記入)
2	3/28～30頃 りんぼう 脱落直前	ネランフロアズル 1,000倍	黒星病、黒斑病、赤星病、 心腐れ症(胴枯病菌)	300ℓ	
		マイリナー 20,000倍			
3	4/6～8頃 りんぼう 脱落期	トレノックスフロアズル 500倍 ダースバンDF 3,000倍	黒星病、赤星病、黒斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 クワコナカイガラムシ	300ℓ	
		マイリナー 20,000倍			
4	4/14～16頃 開花直前	オンリーワンフロアズル 4,000倍 ベルコートフロアズル 1,500倍	黒星病、赤星病 黒星病、黒斑病、輪紋病、 うどんこ病	300ℓ	
		マイリナー 20,000倍			
	4回目散布後 2日程度あけて	「二十世紀」に追加散布 ロフラル水剤 1,000倍	黒斑病		

※なしの生育ステージの写真は、最終ページの参考1を参照してください

★農薬の使用基準を厳守！

- ①適用がない作物へは使用しない
- ②定められた使用量、希釈倍率、使用時期を厳守する
- ③定められた総使用回数以内で使用する
- ④梨園以外へ農薬が飛散しないよう十分注意する
消費者から安心して買ってもらえるおいしい「下野方梨」生産に努める。

(2) 黒星病対策

① 落葉処理の見直し

園地内に葉の形をとどめた落葉がみられる場合は、再度落葉処理を実施する。
実施時期：本格的に子のう胞子の飛散が始まる前（3月中）に実施する。

② 芽基部病斑の除去

芽基部病斑は、見つけ次第摘み取り、園外で処分する。
実施時期：人工受粉前から注意し、見つけ次第除去する。

③ 園地周囲の補正散布

薬剤のかかりにくい園地外周を中心に補正散布を徹底する。



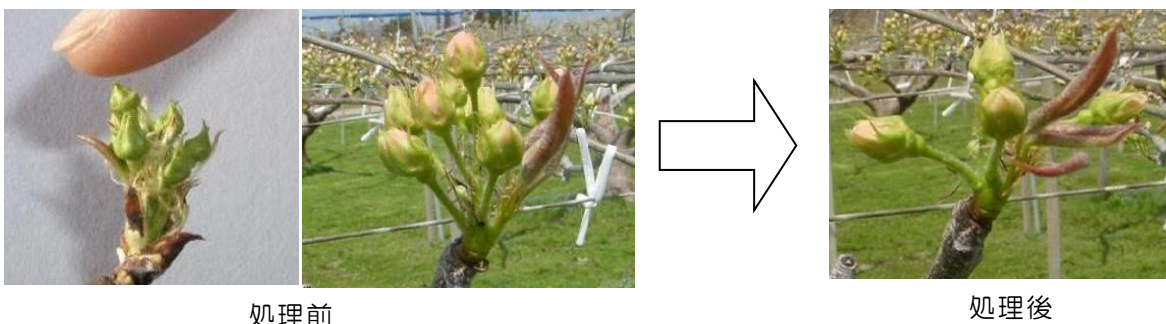
黒星病芽基部病斑
(りんぼうが落ちない)

3 摘蕾

「幸水」の大玉生産のためには、貯蔵養分の消耗を極力抑えることが重要である。
短果枝の花芽整理と、短・長果枝の摘蕾(芽たたき)を実施する。

この作業により、摘果作業の省力化、葉数増加と樹勢回復を図ることもできる。

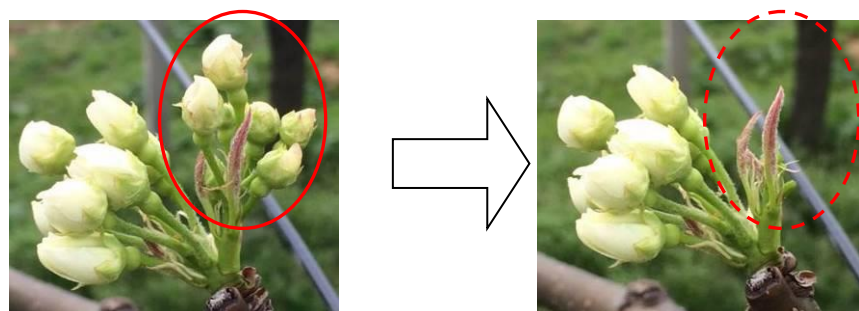
- ① 主枝、亜主枝の先端部（先端から 50cm 程度）は全て摘蕾する。
- ② 側枝の先端 2～3 芽は全て摘蕾する。
- ③ 予備枝に花芽が着生している場合、全て摘蕾する。
- ④ 着果させる花そうは、可能な範囲で出蕾期に芽たたきを行い 2～3 花減らす（写真 1）。
- ⑤ 子花を持った花そうは必ず子花部分を摘蕾する（写真 2）。



処理前

処理後

写真 1 芽たたき



処理前

処理後

写真 2 小花の摘蕾（葉は残す）

4 凍霜害対策

＜発生しやすい条件＞

- 午後6時頃の気温が10℃以下でかつ1時間に1℃以上の気温の低下がみられる晴天無風状況。
- 開花直前から落果直後の幼果期にかけて、-1.8～-1.3℃の低温に1時間程度遭遇した場合（下図参照）。

参考)「幸水」の発育程度別の安全限界温度(福島県農林水産部農業振興課、2019)

発育ステージ	発芽期	花蕾露出期	花弁露出始期	花弁白色期	開花直前	開花始期	満開期	落花期	幼果期
									
安全限界温度(℃)	-3.6	-2.9	-2.5	-1.8	-1.8	-	-1.3	-	-1.3

＜対策＞

- 敷きわら等のマルチは、地温の上昇を妨げるため、降霜の危険性がなくなるまで設置を控える。
- 雑草の草丈が長い場合は、短く刈り込む。
- 冷気の通りを妨げる防風ネットや障害物等は除去する。
- 開花直前又は開花中に被害を受けた場合は、残った健全花に人工授粉を徹底し、結実確保に努める。
- 事前に下記の防霜資材を散布する。

商品名	使用時期	倍率	回数	10aあたり散布量	備考
アイスバリア	霜、低温の直前 芽出し10日後から	100～ 333倍	2～3回	300ℓ	• 植物に吸収させて耐寒性を高めるため、降霜の2～3日前に散布するのが良い。
霜ガード	開花3～4週間前 (蕾期～風船期)	50倍	2回	300ℓ	• 機械油を散布する場合は、先に機械油を散布 • 石灰硫黄合剤との混用は不可 • 暖かい空気を資材に抱き込ませるため午後3時頃までに散布する。 • 満開期に散布した場合花弁が褐変することがあるが、結実に影響はない。
	開花期～幼果期	50～ 100倍	1回		

※両資材とも農薬との混用散布が可能。肥料として登録されているため、倍率、回数に制限はない。

＜問い合わせ先＞JAうおづ 営農課 吉崎 24-9923

参考1) なしの開花までの生育ステージと防除適期

・開花期前後は、黒星病の重要防除時期です。以下の写真を参考に、適期防除に努めてください。

1 休眠期
休眠状態



⇒機械油乳剤、又は
石灰硫黄合剤（特散）

2 萌芽期
鱗片生組織が見られる



3 りんぼう脱落直前
蕾が少し確認できる



⇒デランフロアブル（第1回）

4 りんぼう脱落期
蕾が鱗片から外側に伸長している、
または鱗片が脱落している



⇒トレノックスフロアブル（第2回）

5 開花直前
1～2割程度の花が開花している



⇒オンリーワン+ベルコート（第3回）

写真：南條雅信撮影

参考2) 日本なし品種の自家不和合性遺伝子型

- ・なしは、自分の花粉や同じ遺伝子型の品種の花粉を受粉しても結実しない、「自家不和合性」という性質を持っています。
- ・自園地の花粉を受粉に用いる場合は、下表を参考に異なる遺伝子型の花粉を用いてください。

S遺伝子型	品種	S遺伝子型	品種
S ₁ S ₃	松島、凜夏	S ₂ S ₉	愛宕
S ₁ S ₄	はつまる	S ₃ S ₉	あきづき、筑水、なつしずく、秋麗、甘太
S ₁ S ₆	今村秋	S ₄ S ₅	幸水、愛甘水、王秋、新水、
S ₂ S ₃	長十郎	S ₄ S ₉	新興、南水、新星
S ₂ S ₄	二十世紀、ゴールド二十世紀、菊水	S ₅ S ₆	新雪
S ₂ S ₅	八里	S ₅ S ₇	晩三吉